

プロフィール

1954年5月15日 尾道市向島に生まれる。
1976年3月 明治東洋医学院卒業
1975年4月大阪市北区 小田原医院研修
1977年4月広島市南区 西山接骨院研修
1979年4月 尾道市向島に村上接骨院開院

顔写真



顎関節周囲軟部組織の弛緩による前方脱臼口外整復法の一考察

所属ブロック名 中国ブロック

広島県 村上智一

はじめに

顎関節を保持する筋力低下(関節周囲の筋弛緩)が原因と思われる前方脱臼の整復に関して、故西山 力夫先生から指導を受けた口外法の整復法を主として症例を通じて紹介します。西山 力夫先生は、関節を構成する筋突起に注目して筋突起を利用して介達的に顎関節脱臼整復を行う事を指導してくれました。従来の整復(口外方=船底式・口内式=ヒポテラテス法)は、脱臼した関節頭を直接関節窩に戻す事に主を置く物と解釈しています。

●顎関節の構造連結

関節窩が骨頭に比較して浅く不安定がかなり認められるが関節周囲の強固・強大な軟部組織にて強力に固定・保護されている関節である。

下顎の筋突起は、上顎の頬骨弓(頬骨突起)に位置する(関節連結)

下顎の下顎頭は、側頭骨下顎窩に位置する(関節連結)



●西山式整復のメカニズム

頬骨下に突出している下顎筋突起を押し込む事により下顎頭は、下顎窩に移動という過程に於いて自然な閉口を手助けする整復でないかと推測する。

●前方脱臼とは、(全顎関節脱臼中 75~85%を占める)

何らかの原因で下顎の筋突起が頬骨弓を乗り越えて下顎突起が顔部側に突出し下顎頭は、側頭骨関節窩より前方に滑り出る。関節窩は空虚となる。その結果閉口不能となる。

患者は口を開いたまま閉口不能で、咀嚼、談話不能。下顎歯列は、上顎歯列の前方に転位し耳の前方に陥凹した関節窩が触知される。下顎の弾発固定。頬は扁平となり、関節窩は空虚・下顎筋突起が頬骨弓下部に隆起凸部を触れる。

●整復法: SSP・低周波・マツサージ等を行い顎関節周囲軟部組織(咬筋等)の弛緩を十分行った後に、整復を行う。

仰臥位での整復

1、頭部に枕を入れて少し顔が前屈位に成る様に仰臥位保持を行なう。

2、患者の後頭部→後頸部→肩背部まで板状の物を入れる



- 3、術者は、患者と相対す姿勢で患者の腰から大腿部外側部に術者の下腿部を入れ患者自身を挟むように馬乗りになり 術者の両下肢を締める肢位を保つ。
- 4、術者の母指手掌部で両頬骨の下方凸となっている(巨膠穴付近)、下顎骨筋突起部を顔部から垂直に押し込む。
- 5、他 4 指は患者の下顎部を保持する。そのまま母指手掌部で下顎骨筋突起部を押しつづけると「ズルー」と滑り込む様な整復音とともに整復可能となる。
- 6、場合によっては他 4 指で下顎部を保持だけでなく手前に回転さすように浮かすのもよい。



座位での整復

- 1、患者座位にて 壁にもたれる肢位とする。
- 2、患者の体がぐらつかないようにして顔前方向からの直圧が逃げないようにする為患者後頭部は、しっかりと壁にて固定する。
- 3、術者は、患者と相対す姿勢で患者の腰～大腿部外側部に術者の下腿部を入れ患者自身を挟むように馬乗りになり 術者の両下肢を締める肢位を保つ。
- 5、術者の母指手掌部で両頬骨の下方凸となっている(巨膠穴付近)、下顎骨筋突起部を顔部から垂直に押し込む。
- 6、他 4 指は患者の下顎を保持する、そのまま母指手掌部で下顎骨筋突起部を押しつづけると「ズルー」と滑り込む様な整復音とともに整復可能となる。
- 7、場合によっては他 4 指で下顎部を保持だけでなく手前に回転さすように浮かすのもよい。



●西山式整復の利点(特徴)

患者の自然な閉口を手助けする。術者の微力な直圧で整復可能。

●仰臥位での整復材料

材料 枕 板状の物 (400m/m×500m/m×10m/m)

板とベッド角度 20~30 度。(頭部軽度前屈曲位)
 頭部後側の板は後頭部~肩背部中央部までとする。

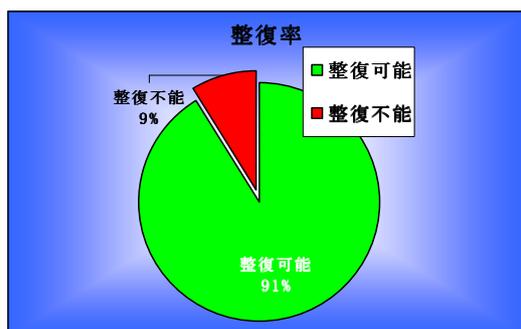


●当院の整復データー 2000 年 1 月~2010 年 5 月(12 例)

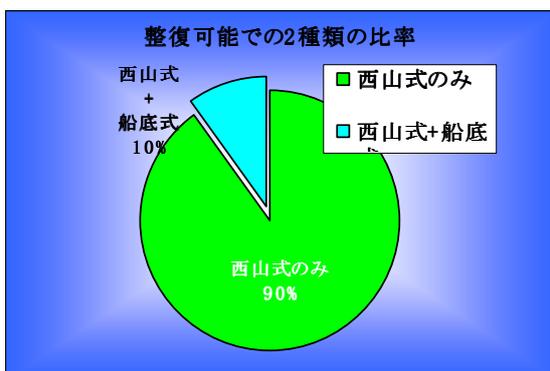
はじめに座位・仰臥位で西山整復法を行ない整復不能の場合舟底式を行なう。

全体の整復率 整復可能=92%(11/12)

整復不能=8% (1/12)

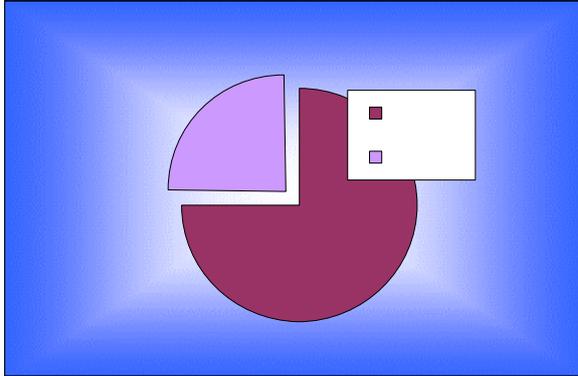


整復可能の例の内:西山式のみ=90% (10/11)。西山式から舟底式に変更=10% (1/11)
 (整復可能中 11 例中)



整復可能の例の内:座位= 82% (9/11)仰臥位=18%(2/11)

(整復可能中 11 例中)



●症例1 H・K 87 歳 男性

負傷原因: 電動ベッドで座位の状態で見守りが食事介護中に脱臼したと思われる。

その後、見守り巡回にて口を閉じていないのに気がつき電話連絡があり。往療依頼にて往療施術より開始。

(5 年前頃より特別養護老人施設に入所、脳血管障害後遺症のため四肢体幹の随意運動・意志の疎通等不能)

●症状

典型的な前方脱臼の様子。患者座位の状態で見守りが電動ベッドによりかかっている状態。関節は、ロックがかかって無く他動運動で若干動くも閉口不能。上下の入れ歯装着状態。

●整復: 座位での整復

整復確認: 患者の下顎を他動運動で上下に動かさせ開閉を確認しつつ他方の手で顔側部の耳の前方凹の消失を確認する。

●予後

この患者の場合、咬筋周囲の筋弛緩が十分である為、西山式整復がスムーズに可能であったと思われる。その後、多い時に 1 ヶ月に2回。通常で1月半の間1回程度、再脱臼を繰り返す。(医師の診断名＝習慣性顎関節脱臼整復後)

(脱臼後の全身状態確認のため医師に往診依頼をしていました。)

●考察

患者の顎関節軟部組織の弛緩 及び 患者が全身の力を抜いている状態 等であれば脱臼とはこんなに簡単に整復出来る。と教えてくれた症例でした。

●症例2 K・Y 92 歳 女性

負傷原因: 食事時の開口時で食べ物を飲み込まないのに気がついた。

●症状

典型的な前方脱臼の様子。上下3横指入る程度の開口状態。下顎他動運動で少しは動く。

ロックはかかってない様子。下顎は上顎の少し前方に転移の様子。上下の入れ歯脱着状態。円背著

しく、体重は 35～38kg程度で介護者が両手で抱きかかえてベッドに移す。円背著しいため横臥位し
か出来ない。意識は有るらしいが問いかけにはまったく反応がなく意思の疎通不能。

●整復

膝窩に枕を入れて仰臥位保持するも術者が整復位をとる前に横臥位になってしまう。仰臥位を保っ
ているわずかの間に、患者の左側方より西山整復法を 5 回行なう。次に後頭部を壁にて保持し横臥
位での西山整復法を、左右 2 回ずつ試みる。

●整復確認:3 横指開口から 1 横指開口となる。

●予後:整復確認を医師に依頼する。後日医師よりの返書にて整復不十分なる事確認する。

●考察

術者一人での整復の難しさ・患者の整復姿位保持の大切さ・自分の技量の無さを再確認する症例で
した。この患者の場合背骨を支点として体がグラグラするのだから仰臥位の(患者整復肢位)を保つ
ために両肩背部に枕を入れ術者一人で整復するのではなく、介護者に患者の体を保持してもらい整
復を試みるのも良かったのかもしれないと反省される症例でした。術者一人で無理だと思ったらいた
ずらに処置を長引かせるよりは、直ちに転医は正しかったと考察します。

●今回の整復法の考察

顎関節周囲軟部組織周囲(咬筋群)筋弛緩を十分行ない、弛緩を確認後 顔部の下顎筋突起を押
す事により自然な閉口の手助的整復ができる整復法で前方脱臼のみ有効と考察した。

仰臥位・座位に於いても前方よりの筋突起部(頬骨下部)の圧迫力が逃げないようにする事が重
要。

整復での圧迫力は微力で可能。患者への負担が少なく 自然な閉口を手助けする整復で経過良
好と考察する。

[参考文献]

南江堂 人体解剖カラーアトラス

日本柔道整復接骨医学雑誌 1993 年第 2 巻 4 号(中辻・中村)

実技発表要旨

はじめに:顎関節を保持する筋力低下(関節周囲の筋弛緩)が原因と思われる前方脱臼の整復に関

して、故西山 力夫先生から指導を受けた口外法の整復法を主として症例を通じて紹介します。西山力夫先生は、関節を構成する筋突起に注目して筋突起を利用して介達的に顎関節脱臼整復を行う事を指導してくれました。従来の整復の口内法や口外法は、脱臼した関節頭を直接関節窩に戻す事に主を置く物と解釈しています。故西山 力夫先生から指導を受けた筋突起を利用して、介達的に整復を行う方法の紹介と考察。

方法:2000年1月より2010年5月までに来院した12例において、筋突起を利用して介達的に整復を行い、その成否の検討を行った。

整復法:はじめに座位又は仰臥位で西山整復法を行ない整復不能の場合舟底式を行なう。

結果:全体の症例の内、整復可能症例は、12例中11例。整復不能症例は、12例中1例であった。整復可能の例の内訳は西山式のみの場合、11例中10例。西山式から舟底式に変更により整復可能となったものは11例中1例であった。整復可能の例の内、座位では11例中9例。仰臥位は11例中2例であった。

考察:顎関節周囲軟部組織周囲(咬筋群)筋弛緩を十分行なった後、顔部の下顎筋突起を押し自然な閉口の手助け的整復ができる整復法で前方脱臼のみ有効と考察した。仰臥位・座位に於いても前方よりの筋突起部(頬骨下部)の圧迫力が逃げないようにする事が重要。整復での圧迫力は微力で可能。患者への負担が少なく 自然な閉口を手助けする整復で経過良好と考察する。